

ついに!

子どもたち、保護者から喜びの声

教室エアコン設置きまる



共産党の論戦・住民運動の成果

福岡市は市立小中学校のすべての普通教室にエアコンを設置することを決めました。2月議会にまず15校分の補正予算を計上しました。

徹底論戦が市長
を追い詰めた

日本共産党市議団は、猛暑が深刻化した十数年前から教室エアコン設置を要求し、毎年、代表質問、一般質問、予算要望などでねばりつよくとりあげてきました。

【学校環境】教室温度の調査を実施させ、国の基準に反する実態が明らかに。

【他市調査】政令市でも次々広がる。京都市は1年間で実施、環境学習と一体に。

【財源しめす】国の補助金を活用し、教育予算の削減分を復活すればできる。

「タオルと水筒を持たせている」「扇風機で十分」などと洗ってきた市長と教育委員会でしたが、教室で熱中症になり救急搬送された例などもしめして「早急に設置を」と迫った共産党市議団の論戦に対して、ついに反論できなくなりました。

共同した運動で



学校施設を点検する「学校ウォッチング」が、福建労、新婦人、民商などと党市議団との共同でとりくまれてきました。その中でエアコン設置が強い要求になりました。

こうした運動と議会論戦は、保護者、教職員の共感を得て、市民の中で大きな世論となりました。これまで消極的・否定的だった他党派もエアコン設置を要求するようになりました。

新年度予算で全校に一気に設置し、冷暖房ともができるだけ早く使えるようにすべきです。引き続きがんばります。